

## 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第2回)会議概要

- 1 審議会名 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第2回)
- 2 日 時 平成30年1月11日 午前9時00分から午前11時45分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室(東)
- 4 出 席 者 板花守夫委員、丸山秀子委員、安田太樹委員、松下順子委員、東本優子委員、丸山早苗委員、三澤郁子委員、丸山太悟委員、高橋正光委員、興智幸委員、齋藤岳雄委員、久保田敏彦委員、丸山栄一委員、浅川増行委員、中田平男委員、池上洋助委員、丸山昌則委員、鳥羽芳信委員、平林千代委員、小池晃委員、須澤佳正委員
- 5 市側出席者 大向部長、大竹課長、丸山課長、平川局長、上野課長補佐、太谷課長補佐、矢花課長補佐、百瀬係長、中村係長、丸山係長、山田係長、高山次長、二村副主幹、赤須主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成30年1月17日

### 協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
  - (1) 開会(大竹課長)
  - (2) あいさつ(大向農林部長)
  - (3) 協議事項
    - ①「平成 27 年度実施状況における今後の課題と方向性 28 年度取組状況と今後の方針」
    - ②意見交換
  - (4) 閉会(大竹課長)
- 2 協議の概要  
＜委員の主な意見＞  
【お米について】
  - ・米の生産調整に関し、適正に生産の調整を図るとことはよいのではないか。
  - ・来る観光客、また地元の旅館や飲食店で安曇野産が欲しいという需要があるので、それに対応したお米の供給体制も JA が窓口となるべきではないか。
  - ・コシヒカリ一辺倒であっては、販売力として弱い。買う人に選択肢があるということが重要ではないか。
  - ・昨年あたりから風さやかの銘柄を指定し、購入するお客が増えたと感じる。
  - ・県内の生産場所によって風さやかの旨みが違うというのを聞いたことがあるが、多収だから作るということではなく、JA や普及センターと連携して、食味の良いものを作ることが大切。
  - ・多くの農家に風さやかについて情報を発信することで、作付けの増につながるのではないか。
  - ・高冷地になると、一等米比率が低いところが多い。一等米比率を確保するためには、水田の土の状態を確保しなければならない。徹底した施肥改善をし、品質、収量、味覚のバランスを確実にコントロールし、実績を作ったうえで、ブランドに繋げる必要がある。  
【ブランド力の強化について】
  - ・ブランド力の強化として、品質の向上を図っていただきたい。
  - ・一定の基準を満たした農家との差別化をはかると同時に、特定の状況を満たした地域に産地を固定するという差別化をはかるなど実績を作っていかなければならないと思う。
  - ・畑や水田の状況を把握しないで、コシヒカリや風さやかを作ることだけでは、何ら特徴も得られず、ブランド化もほど遠いと思う。根本的にそういうところを改善していくという姿勢が大事。
  - ・本腰を入れた行政と JA との情報共有をおこない、ブランド化に向けた対策をとっていくことが大事だと思う。

- ・安曇野市で売り出したいと思っているブランドについて、地元の消費者にどの程度伝わっているのか疑問である。
- ・ブランド品を作っていくというのは、それぞれの団体、JA、行政が長い目で見ていかなければならないと思う。
- ・都会は人口が多い。高いものが売れることもあるので、収益の面を考えても、もっとブランド力を強化して、首都圏に発信していければ良いと思う。

#### 【連携について】

- ・各 JA の対応が同じとは限らないが、そこをつなげていくのが、行政ではないか。
- ・本腰を入れた行政と JA との情報共有をおこない、ブランド化に向けた対策をとっていくことが大事だと思う。
- ・友好都市と一緒にトップセールスが出来れば少しでも農家のみなさんの力になるのではないかなと思う。
- ・農協が先頭に立って方向付けをし、バックアップを行政にお願いすると形式が良いのではないかな。特に、販売のブランド化は求められて出来ていくものだと思う。
- ・生産者側が地産地消に対して協力ができるよう、行政と生産者の情報を密にしてほしい。

#### 【情報発信について】

- ・SNS 等を使用した情報発信が重要。個々の対応が出来ないものは全体で発信していかなければならない。
- ・都会や友好都市との交流の中で安曇野の農産物を紹介していくことも大切だが、身近な消費者にも伝えられるようなイベント等も開催していただきたい。

#### 【荒廃農地対策について】

- ・荒廃農地を再生すると、鳥獣害の問題が出てくる。鹿などの防除をしていくにあたり、ジビエという問題も生じるため、ジビエの活用も必要ではないか。
- ・荒廃農地解消には時間がかかる。農産物によっては収穫に1年かかるものもあり、解消の結果が出るまでに時間のかかるものもある。長い目で対策を続けていかなければ、荒廃農地が増えてしまう。

#### 【食育について】

- ・地元の保育園、幼稚園に地場産のものを出すと同時に、食と農と健康に関し、安曇野の水で育った作物はこれだけ素晴らしいということも発信していくと、それがお母さんたちにも伝わって、それが市民に認知されていくのではないかな。
- ・子どもに向けた教育も、将来的に安曇野の農業としてまとまっていくために必要不可欠なことだと思う。

#### 【その他】

- ・東京で販売をしていると、最初は量の少ないもの、例えばお米のパックも3合パックや2合パックで試してから、気に入ると郵送で1kg~10kgを購入したいというふうにつながる。販売先の嗜好や行動等を把握して、情報を得ることが必要。
- ・規格外品などを有効活用できるような販売戦略や、もっと先を見れば加工して安曇野のお土産になるようなものを作っていくことが出来れば良いと思う。
- ・市民ひとりひとりが大事な広告塔になる。市民が認めているものはたくさんあるが、どのように活用すればいいのかわからない点もあるのではないかな。

以上